



2022.12.1
関西四極会報
 第 27 号

〈発行責任者〉 和田 安生 〈電話番号〉 06-6349-9120
 〈編集長〉 松尾 信 〈ファックス〉 06-6349-9121
 〈発行所〉 〒566-0045 摂津市南別府町 8-40
 (株)カトー精工内
<http://www.kansai-shiwasukai.club/>



新会長就任ご挨拶

会長 和田 安生 (大学 24 回) *

皆さんこんにちは、10月2日の関西四極会総会にて会長に選任いただきましてありがとうございます。

簡単に自己紹介しますと、上野丘高校卒、深道ゼミ(数理統計)、グリークラブ(男性合唱団)、囲碁部です。就任にあたりまして、私の四極会に対する3つの自慢と2つの課題を述べさせていただきますと思います。

自慢その1) 私の父も四極会会員(和田幹雄、高商23回)で、親子2代に亘っての四極会会員です。ただ親子2代会員の方は他にもいらっしゃいますが、そのうえ父が母校の教授(大分大学名誉教授、管理会計)というのは、おそらく私一人だけではないかと。

子供の頃は、上野丘キャンパスのグラウンドの端(ボールの反対側)の官舎や裏門のすぐ外の官舎に住んでいました。毎朝毎晩あの正門をくぐって登下校していました。学生時代は旦野原キャンパスでしたが、今でも上野丘キャンパスに対する懐旧の念は誰にも負けない自負があります。

自慢その2) 昭和51年春に卒業し、関西の企業に就職しました。その年の関西四極会総会に父が本部理事として来賓で来ることになり、「新大阪のホテルで関西四極会総会があるから、お前も来い」と連絡があり、訳も分からずに出席しました。

当時父は50才で、参加者のほとんどはさらに年長の方でした。22才の和田青年の目には、ここは養老院かと見まがうばかりでした。しかしせっかく親父が頑張っている様子なので、その後も毎回出席しました。以来40有余年連続して総会参加を誇っています。(コロナ禍で開催されなかった年を除く)

自慢その3) 30年ほど前(40才頃)の事です。いつまでも自分が総会参加者の中で最年少グループに属していても将来が案じられるので、総会とは別に若手会を立ち上げようと思い立ちました。

数人の方々に手伝っていただき、会員名簿を頼りに30才代の人に声をかけ、20数名の参加がありました。この若手会は2年続きました。しかしやはりこの年代

の方は会社の中核でもあり、せっかく参加しても転勤で継続は困難でした。もちろんこの時の若手会に参加された方で現在も総会に参加されている方がいらっしゃいますし、心強い限りです。

課題その1) 大分県関係県人会(県人会・各高校等の同窓会・市町村人会の連合体)へ出席しましても、どの会も押し並べて新しい方々の参加が少ない、出席者が毎年減少している、との同じ悩みを抱えています。

関西四極会にしましても、全国の支部の中では頑張っていますが、やはり年々高齢化が進み参加者が減少していることは否めません。

私の経験から言いましても、老壮青それぞれの考え方、立場が違います。それぞれの特性に合った方策を考えていく必要があります。

- (青) まず同窓会の存在を知ってもらう。
- (壮) 転勤はあるが、せめて関西にいる間は関西四極会総会に出席してもらう。
- (老) 定年を迎える、あるいは既に定年の方に居場所を与える。郷愁を共有する。

具体的な特効薬があるわけではありませんが、一步一步足元から進めて行くことが大事だと思います。

課題その2) 総会参加者も将来やがては、旦野原世代の人が上野丘世代を上回る時代が来ます。上野丘世代の人は、「学生時代」=「大分大学経済学部」の思いでしょう。しかし旦野原世代の人はクラブ活動などで「学生時代」=「大分大学各学部の集合」の思いもあるでしょう。

もちろん各学部の同窓会はそのまま存続するでしょうが、同窓会相互の連携も重要になってくると思います。むしろ他学部同窓会との合同会などをきっかけに四極会への参加を呼びかけることができるようになれば、しめたものです。

最後に) 会員の皆様の『青春時代の心の故郷』としまでも、今後の関西四極会の発展の為に、役員の方々を始めとして皆様のご助力をいただきながら一つ一つ努力を重ねていく所存です。どうかご協力よろしくお願ひします。

大分大学 100 周年記念行事へ参加して

泉 博二 (大学 22 回)

2022年6月25日大分大学経済学部創立100周年記念式典に参加しました。大分市内のiichiko総合文化センター音の泉ホールで開かれました。さらなるコロナ感染が危惧されてホテル日航大分オアシスタワーで開催予定であった記念祝賀会は急遽中止されました。様々な方々と会話できることを楽しみにしていましたが、残念でした。

そもそも当初は記念式典に参加するつもりはなかったのですが、ある先輩が言った「大分大学にはお世話になったからなあ！」という言葉に触発されたのが始まりです。

今日の自分があるのは就職という社会に出るまでの4年間を大分大学で培った様々な体験があったからで、そこは当然ではなく、感謝すべきことだと思っただけです。

また、記念式典にはゲストとして歴史小説家の安部龍太郎さんの講演を拝聴できることがさらなる参加の決め手になりました。安部龍太郎さんの作品は直木賞を受賞された「等伯」をはじめ数ある作品の中で特に愛読したのが「信長燃ゆ」・「葉隠物語」・「信長はなぜ葬られたか」など興味ある作品が多く、最も敬愛する作家でその史実に基づいた作風が魅力的です。

この度の講演は「宗麟の海」をテーマに地元の大友宗麟のお話が聞けるといっているので大いに参加への意欲が湧いてきました。

6月25日午前9時前の新神戸駅発の新幹線で小倉駅まで行き、小倉駅から久しぶりにソニックに乗車しました。大分駅までの窓外の景色はほとんど変わっていませんでした。

iichiko総合文化センターは大分駅からアーケード街を通り抜けた先にあり、大分駅が新駅建設で新装されたこととアーケード街も店舗に活気が戻ってきたのは新しい発見でした。

iichiko総合文化センターに到着するとまず目に入ったのが1階で行われていた「自遊展」です。大学OBが絵画・書道・書籍・能面などの制作物を出展しているコーナーでまさに「玄人はだし」の作品が数多く展示されていました。どの作品も自信作という誇りが感じられました。

ここでは多くのOBの方々の中で数名がお会いしたことがあるが、氏名が出て思い出せない方がいらっしゃいました。

階上の音の泉ホールに行くと卒業生、現役生など座席がエリア指定されており、ほぼ満席の状況でした。

始まるまでの間、医学部のオーケストラがバックミュージックを演奏していました。

13時30分より記念式典が始まりました。大分大学学長をはじめ経済学部長の式辞やお役所の方々の祝辞、100周年事業に貢献された方々の表彰、記念事業の紹介などがありました。

また、15時より創立100周年記念講演会として『大航海時代と大友宗麟』と題して安部龍太郎氏の講演がありました。「宗麟と海」を事前に講読していただいたのでウイットに富んだお話は大変楽しく拝聴できました。

講演後のロビーで安部龍太郎氏と立ち話する機会があり、記念写真にも気軽に応じて頂きました。

長崎市出身で帰省する際にも大分まで足を延ばすことが少ないので、これが最後になるかもしれないと思い、翌日26日(日)に大分大学のある旦野原に行った。

学生時代はバスで10号線を通っていたが、現在は豊肥線で大分駅から4つ目の大分大学前で下車すると男子寮の下側に着いて学内まで坂道を登ればすぐでした。

大学は校舎・図書館・スポーツ設備とも刷新されたのかとても充実した設備となっています。思っていたよりも全く老朽化していないのが嬉しく思いました。

また、多額の寄付を頂いて設立された黒土記念講堂や100周年記念碑と旧上野丘校舎正門レプリカなども見学しました。

この度の大分訪問は思わぬOBの方々にもお会いでき、大変に充実した旅でした。昨今の経済学部生は女性が40%を占めて学科も多様化した社会に沿って増えており、卒業して48年になりますが様々に変化していく様を実感します。

更なる100年後はどのようなになっているか？想像もつきませんが、関係する皆さんの協力で益々の充実を祈念しております。





経済学部100周年記念行事に参加して

藤野 敬三 (大学 22回)

1. 参加の思い

大分大学経済学部は、令和4年(2022)4月6日に100周年を迎えました。大正11年(1922年)に開学、その時の入学者は152名です。全国より秀才が集まりました。

大分大学マンドリンクラブ(OUMC)は昭和33年(1958)に5名の同好の士によって創部され、今年で64周年を迎えます。今なお活動は続けられ音楽ファンを魅了しています。



100周年記念碑

大学にせよ、サークルにせよ、長く存続し続けることに感銘を覚えます。その歴史の中にいたことに喜びを感じると共に、自分の原点を見直したくて100周年記念行事に参加しました。

2. 記念行事

100周年記念行事は令和4年(2022)6月24日(金)の前夜祭、25日(土)の母校ツアー、記念式典、記念講演会、26日(日)ゴルフ大会、臼杵石仏・城下町ツアーと盛大に挙行されました。私は25日(土)の母校ツアーと記念式典、記念講演会に参加しました。

3. 母校訪問ツアー

母校ツアーでは大分駅東側のバス駐車場に参加者17名が集合、9時に出発、市内はすっかり変わっており、どこを走っているのか見当がつかいません。いつの間にか上野の大分県立芸術文化短期大学のキャンパスに到着、松井一博さん(18回)の案内で高商の門柱と記念碑を見学しました。特に門柱に続く坂道では懐かしさに涙の先輩もおられました。



高商の門柱の前で

4. 経済学部棟

続いてバスで旦野原キャンパスへ、受付で手続きの後、昔のままの坂道を上る、自然の豊かさはあの当時のままです。経済学部棟は当時より建物が増えてしかも設備も色彩も豊かになっています。玄関で事務長さんが出迎え、教室を案内、改装なった黒土始記念講堂はスマートな内装、オレンジの椅子、パソコン端子のついた机、天井には映像システム、大講義室、学生た



黒土始記念講堂



懐かしい大講義室(101教室)

ちが羨ましく感じられました。

1階はアーカイブ室に、過去の写真やデータを見ることができます。

大講義室も照明をつけてもらいました。私には思い出深い講義室であり、あの机で入学試験を受けたこと、受験番号が1番だったことなどを思い出し、感慨もひとしおでした。



100周年記念公園

100周年を機に記念公園も作られていました。100周年運営委員会の皆様の英知が感じられました。

時代とともに大学も進化しています。女子学生が進出してきたこと、

校舎や教室がカラフルに変身されていること。ハイテク機器が設置されIT化が進んでいること、大学が公園化されていることなど大学の進化を感じました。

再び、バスでichiko総合文化センターに、母校ツアーはこれで終了です。

5. 四極会芸術文化「自遊展」

ここで佐藤浩一君(25回)と昼食。彼の計らいで美味しい関アジを食べました、大阪で食べるものより何倍も美味かったです。前日同期の首藤学君(22回)と食べた海鮮料理も美味かったが、大分の魚は実に美味しい。そして友との会話が美味さを倍加させます。



四極会芸術文化祭 自遊展

食後、同窓生による「自遊展」を見学、「日本画、洋画、水墨画、版画、切り絵、写真、書、川柳、短歌、俳句、能面、木彫、陶芸、映像」などを見学しました。同窓生の才能の豊かさをまざまざと実感しました。

6. 記念式典

開会の10分前に、会場の「音の泉ホール」に向かいました。入り口に、在校生がずらりと並び笑顔で出迎

えてくれました。すばらしい「おもてなし」でした。

100周年記念式典が始まる前の時間に、医学部・管弦楽団(エスプレシーボ)のメンバーによる「ビバルディの四季」や「パッヘルベルのカノン」の四重奏が会場の空気を和らげてくれました。

式典は文部科学省丸山洋司審議官、広瀬勝貞県知事、北野正剛学長、石川公一四極会会長が祝辞を述べ、創立100周年を祝う厳粛なセレモニーとなりました。

そして功労者として黒土始・第一交通創業者の表彰が行われました。多額の寄付で学部に貢献している黒土さんですが、車いすで参加、式典中ずっと参列、表彰では北野正剛学長より感謝状が手渡され一段と大きな拍手が鳴り響きました。今年100歳で元気なお姿で参列されていることに感動しました。母校を愛し応援する同窓生がいます。これこそ100年の歴史だと思いました。



記念講演前の弦楽四重奏

7. 記念講演

記念講演は直木賞作家“安倍龍太郎氏”が「大航海時代と大友宗麟」と題して話されました。

織田信長・徳川家康連合軍対武田勝頼の長篠の戦の話は面白く、火薬、硝石、鉛の量が闘いの勝負を決めます。戦いの後、鉛の弾を拾いに地域の農民が行くからほとんど戦場には落ちてないなど興味深い話が多々ありました。宗麟の話では、医者としてのアルメイダの話が興味深かったです。すばらしい講演会でした。

8. 結び

記念行事に参加して、100年の歴史の重みに感銘を受けました。100年永続の要因は同窓生の母校愛と同窓生の才能の豊かさにあると感じました。母校はふるさとであり、自らの原点です。改めて「大分大学経済学部」のすばらしさを実感致しました。大学は日々進化を続けており、「時代を超えてこれからも」益々の活躍が期待できそうです。



サプライズ and ニューヨークの孫 Nelson 君

小川清一郎 (大学 15 回)

Covid19という言葉は初めて耳にしたのは2020年初春でした。「STAY HOME、三蜜回避」の努力にもかかわらず、ウィルスは変異し感染は広がっていきました。

ワクチン接種が順調に進み、日常生活に少し落ち着きの気配が感じられるようになりました。皆さんはこの3年余りいかがお過ごしでしたでしょうか？

コロナ禍での私の生活の中心は菜園でした。そこは屋外で楽しめる唯一の「避密の場所」であり、心地よい汗を流し静かな時間を感じられる、心身ともにリフレッシュできる場所でした。

収穫した作物は我が家の食卓を賑わし、“上手にできたわね！ありがとう。”の言葉を励みに過ごしてきました。

○サプライズ

そのような日々の繰り返しの中に突然サプライズが起きました。2022年3月21日朝NYの娘からLINE連絡が入りました。

Mike (夫)が「友人のRonとAdamsが昨夜琵琶湖キャンプ場で過ごし、今自転車で大阪へ向かっている。1日SHORT STAYお願いできないか？」とのこと。

こんな雨の中、自転車で来るとは何事だろう？取り敢えずOKして歓迎の準備に取り掛かった。

家の住所と携帯番号を教えたただけだったが、pm5時ごろGPS装備の大きな自転車に跨った二人が到着し

た。前後の荷台には大きなリュックが詰まれ、後輪の上には南アフリカ国旗、日本国旗、DHL旗が3本並んでいた。

早速、雨で冷えきった体をお風呂に入って温まってもらった。久しぶりの入浴に満足した様子、ビールで乾杯！ Welcome to Osaka！



Welcome to Osaka

自己紹介の後、おでん、サラダ、寿司を肴にして日本酒でまたKAMPAI！歓談が始まった。英会話を練習中の私たちの拙い話しかけも少しは通じたようです？(家内は途中で席を外し、彼らのリュックに詰め込まれた衣類ほかを数回に分けて洗濯、乾燥。6時間ほどかかったとのことでした。)

Ronさんは南アフリカ共和国ラグビーナショナルチ

ーム「SPRINGBOKS」の元選手でMikeにコーチを受けていた。Adamsは友人。

今回のサイクリングアドベンチャーの目的を聞いて私たちは驚嘆。その後Adamsが「黄金の笛」を見せてくれました。



gold whistle

2023 RUGBY WORLD CUPフランス大会が2023年9月8日に開幕します。今回のサイクリングは、開幕初戦(フランス対Nzオールブラックス)で使用される“Gold whistle”を開催国フランスに届ける旅で、大会スポンサー企業DHLの支援を受けラグビーの普及及びアジア地域の恵まれない子供たちを支援するために、寄付を募るDonationの旅でもあるとのことでした。

それにしても南アフリカ共和国～日本(東京～長崎)～アジア・東南アジア～太平洋島嶼国～ニュージーランド(最終)まで、十数か国・地域・島を200日以上かけて巡る旅は凄い。まさしく彼らの旅はAdventureそのものと感じました。

翌朝の天気はあいにくの雨でした。身綺麗になった二人とHUGして別れました。GOOD LUCK!! 素敵なサプライズでした。

(5月中旬、日本でのサイクリングの旅の様子をRonとAdamsがアメリカのラジオ局を通じて話していましたが、大阪でのサプライズを喜んでいました。)

○ニューヨークへの旅

2022年4月19日私たち夫婦はケネディ空港に到着、ニューヨークはまだ肌寒い気候でした。

初孫と会いHUGする夢が叶うその時がついにやってきました。Covid19の世界的蔓延で渡航が遅れ、孫の誕生からすでに2年が経過していました。

空港からイエローtaxiに乗ってブルックリンに向かった。マンション前の歩道を少し上っていくとバギーに乗ったネルソンと娘の姿が見えた。



やっと会えました!

”ネルソン君!”呼びかける声のトーンはいつもよりオクターブ高く、小走りに近寄っていきました。

大きな瞳で私たちを確認するよう見つめていますが、jiji、babaと判り安心したような表情に変わりました。

この2年間、二日に1回はリモートでネルソンの表情や仕草を見てきました。身体は小柄で色白、大きな青い瞳、やっぱり実物(in PERSON)が最高! SO Cute!!!.

名前は Nelson teru Robertson (2020.03.20生れ)

父: イギリス人、母: 日本人

父のMichael Robertson曰く、“[Nelson] の名は、尊敬するNelson Mandelaの名をいただいた。” teruは日本の曾祖母の名を取り入れた。

マンデラは元南アフリカ共和国大統領(1994～1999在任)でアパルトヘイト(人種隔離政策)の撤廃に尽力し1993年ノーベル平和賞を受賞した人物である。

Mikeは青春時代を南アフリカのラグビーナショナルチーム「スプリングボックス」で過ごし、後にコーチも経験。

南アフリカでの自然が大好きで、私たちがNYに到着した日は、まだ友人と南アのサファリパークに旅行中でした。



Nelson君で～す

さて、BROOKLYNでの私たちの生活は当然ながら孫の生活ルーティーンに沿って進みました。(コロナ禍でありMikeは自宅でリモート勤務)

- ① 8:00 朝食
 - ② 10:30～12:00 遊び道具をもって公園
 - ③ 12:00～13:30 昼食・昼寝
 - ④ 14:30～16:00 公園、プール、お絵かき教室
 - ⑤ 17:00 入浴 18:30 夕食 20:00 nelson就寝
- 20時以降が大人の時間でお酒を飲みながら歓談。(Mike曰くSEITIROはお酒を飲むと滑らかに喋る?)

○エピソード

1か月滞在するのだから少し英会話をできるようにしたら・・・とNYの娘に言われました。

2021年からbabaは娘の友達(NY在住)からリモートLESSONSを受け始めました。

私は昔買っていた会話本のCDやテープ、幼児向け絵本等を探し出して特訓。

読み書きは少し出来るのに覚えが悪い、覚えたつもりが直ぐに思い出せない。ヒアリングは今更どうしようもない。BSテレビの海外ニュースは睡眠薬替わり

でした。

現地に行って分かったことは一案ずるより産むが易一でした。相手(聞き手)が努力して解かろうとしてくれる。相手の目、口、表情などを見ていれば何とかなる。

それで駄目なら PARDON ↑ 家内はGoogleアプリを上手に使いこなしていました！

○素敵な言葉—SHARE

私たちは毎日孫の気に入った遊び道具をバギーに積んで公園に出かけました。遊園広場の砂場や芝生は大勢の幼児・親が集まって国際広場となります。

アメリカでは夫婦ともに独立した職をもった夫婦が主流で、平日はシッターさんに育児を手伝ってもらうことが多い。公園で数人のシッターさんと親しくなりました。

お話を聞くとヒスパニック系の出身者が多く、皆さん陽気で幼児の扱い方もとても上手でした。

幼児たちは自前の遊び道具に飽きがあると他人のもので遊びたくなるもの、そして道具の取り合いが始まります。

そんな時、必ず耳にした言葉がSHAREでした。子らに「道具を分け合って仲よく遊びなさい。」と言って聞かせるのです。

SHAREという言葉の響きがとても新鮮で優しい気持ちにしてくれました。

○À GOOD COOK=Mikeの二刀流

滞在中、Robertson家には多くの人を訪れました。またNY州北部のPINE WOODSのハウスでは2週間私たちをもてなしてくれました。

おもてなしの料理長はMikeです。彼は料理するのが好きで大変上手です。来客予定が決まると前日に食材の手配、下味付けをして冷蔵庫に寝かせ、当日



Mikeの料理

は、リモートで仕事の時も調理の進行をチェックするために休憩をとってキッチンに現れます。段取りの良さには感心させられました。

メニューはチキンと魚は蒸して、肉はバーベキューで食べることが多かったが、スパイスの選定には特に注意を払っていました。料理に合わせて飲むワインの選定も満点！

単身での生活が長かったからか、世界の美味しいものを食べ歩いてきたからか？味も調理加減もvery good!でした。

家のキッチン横の棚には世界の料理本が並んでいて、外で食べた料理が気に入ると必ず自分で挑戦して作るということです。なるほどね。

みそ汁、焼き魚と卵焼きのみがレパートリーの私は思いました。娘は素敵なパートナーに巡り合えた！と。

○今後の成長を楽しみに

初めてNelsonと会ってから早いもので半年が過ぎました。9月から週3日保育園に通っています。

今日はHALLOWEEN。大好きなBlippiの装束を着てbrooklynの街を歩いているビデオが届きました。

英語の会話も単語だけからきっちりとした文章になってきました。日本語も少しずつ覚えてきました。そしてなんとMikeも日本語を学び始めました。

滞在中にNelsonの将来について少し話をしました。Mikeは”どのように考えていますか？”と。

「彼が何をしたいかを決める時には全力で応援する。今は素直で、正直で、元気な子に育つよう見守っていきます。」

Nelsonが20歳になった時、私は97歳！先々のことはMikeとYukoに任せよう。

有難う。また会いに行きます！！



Kingston Parkにて



思うままに

田川 幸雄 (大学17回)

コロナ禍で、生活が一変した。今までの当たり前が、当たり前でなくなった。人間は弱い、小さいなあと感じる。不自由な生活の中、思うままに。

「大学時代」

今思えば青春そのもの。夢と希望と不安。青春で

す。基本姿勢は親から面倒をみてもらったので、学生の本分は尽くそうと思った。授業には出る。そして勉強する。魅力のない面白くない講義もあったが楽しかった。特徴のある先生がいた中で、必ず「諸君はご存じないように」の切り出しで全く学生を食ってかかっている講義にひかれた。入学以来大人扱いをされる中、実にユニークで新鮮さを感じ、何のためらいもな

くゼミに入った。竹村脩一先生(金融論)である。我々の年度は(17回生)学園紛争で卒業式がなかった。卒業証書はゼミの先生から頂いた。その時言われたのは「君たちは都会人のスマートさと洗練さには勝てない。田舎者は田舎者らしくやれ」と。今でも忘れない。また教員免許取得のため教育学部にも通った。教育実習は(大分商業)ハードだった。授業のため朝まで勉強した。ほぼ年も変わらないのに「先生」である。教えるということは自分が本当に理解していないと出来ないことを知った。貴重な経験をした。この時期卒論と重なったが何とか切り抜けた。下宿は上野が丘校舎近くの若宮神社前。同下宿同級生(大川君、松尾君)とは10年前甲子園球場で再開した。懐かしく嬉しかった。クラブ活動はマンドリン、自動車部入部するも途中退部。

「思い出地点」上野が丘校舎、校門、大教室(階段)他、百万石、二十八万石、映画館、大分城、公園、大分川、駅前パチンコ、屋台、トキハ、勤労会館(ダンバ)オデオン(ダンスホール白石君と受講)。

「剰余価値生産時代」

組織生活は学生時代と全く違う。受け身から能動、同世代から異世代関係、評価は試験の点数から人間、人が人を評価する。不完全な人間がやることだから基本的には難しい。人間関係がかなり左右する。人間は多面的で十人十色。理不尽と思われることが多い。その上「和を以て尊し」の時代。麻雀、ゴルフ、酒、ボーリング、野球、演劇等色々やらされた(?)。健康診断で生活の見直しを言われ、それから健康第一に努めている。人間的には公平無私で人間力のある人を敬慕し、私自身全く未熟者なるもいつも心して過ごしている。

「非生産的時代」

組織から離れ少し寂しい思いはあったがそれ以上に開放感があった。健康第一志向だったので「楽しそう、いいなあ」と思うことにチャレンジ。スポーツジムに入会「トレーニングの他ダンス(フラダンス、ベリーダンス)ヨガ、ピラティス、大極拳、カポエラ、ボクシング、ボール等」更に座禅会(お寺)、体操教室、カラオケ、テニス等全く非生産的なことに熱中した。

簿記検定(1-3)受験し資格取得したが、年をとっての受験はしんどかった。ジムでのレッスンは(30-40人)昔お姉様が主体で男性はほとんどいない(特にダンスは1人)。前面は鏡その加齢(?)な姿が。人の目を気にしたら出来ない。先生のみをみて無心でやること。振付を覚え(サマ)になるよう必死のパッチ。体操教室は月1回だが毎日家で行きお陰で少しは体が柔らかくなった「写真」。カラオケは週1回。持ち歌も相当な曲になった。座禅会は近くのお寺で月1回参加。「調身」「調息」「調心」雑念ばかり浮かぶが心身共にスッキリ。そしてコロナ禍全てを休止し主体は散歩のみ。体力の衰えを痛感。平穏になれば一部再開した



い。また同級生の有馬君(元滋賀大学教授)の講義を受けたいと思っている。

「年寄りの心得」

買い物、散歩、公園等何かとトラブルを起こしているのは年寄り。社会的存在が薄れフラストレーションが溜まっているのかなと思う。反省の観点から。

「心得」(コラムより)

- ・年をとったら出しゃばらず、憎まれ口に泣き言人の陰口言わず他人のことは褒めること、知っていても知らんふりいつでもアホでいること。
- ・一歩下がって譲るのが円満にいくコツ。いつも感謝を忘れずにどんな時でも「へいおおきに」。
- ・いくら頑張り力んでも体がいうこときかない。あんたはえらい、わしゃあかん。そんな気持ちでいること。
- ・ボケたらあかん、そのために頭の洗濯生きがい何か一つ趣味もってせいぜい長生きすること
分かつちやいるけど、それが出来ないんだよなあ。

「最近特に思うこと」

AIをはじめ超近代化の社会でコロナ禍(疫病)、天災(地震、台風、水害等)、酷暑、戦争等負の勢いが止まらない。全てが極端で穏やかな日々が奪われている。そんな中で特に思うこと。

- ・当たり前であることの尊さを再認識(阪神淡路大震災と今回)

日頃気に留めず過ごしていたことの尊さに気づく。「どこにでも行ける自由」「人と会う、会話する」等また日々の生活の中でも「大小便をすること」「服を着ること」「ご飯を食べること」「疲れたら眠ること」等は当たり前のことだと思っている。しかし今回のコロナ禍あるいは病になったり年とったりしてこれら当たり前と思っていたことの尊さが身にしみてわかる。

コラムに「悟りとは失ってはじめて知る尊さを失う前に気がつくことである」とあった。全くその通りだと思う。

- ・人間の命は有限であること。

「この世の中的一切のものは常に生滅流転して永遠不滅のものはない」ということをつくづく感じた。と

りわけ有名人の死はショックだった。コロナ禍治療薬もなく特に高齢者はリスクが高いと連日いわれ本当に危機を感じる日々。江戸川柳が心にしみる。「目が覚めて、今朝も嬉しや、今日もまた、この世の人であると思えば」

・「人生ゼロサム」(良いことも悪いことも±ゼロ)
 良いこともあれば悪いこともある。人生塞翁が馬。暴飲暴食していれば必ず制限を受けることになる。何

事も適当、いい加減がよい。また極端な考え行動もなかなか受け入れがたい。やはり中庸が大切と思う。
 ・全てを受け入れ今を楽しむことでしょう。
 過去も現在も未来も「今」という時間の連続体が時間。過去は取り戻せない。未来はわからない。{今}を感じ「今」を楽しみ「今」に意識を取り戻し大切に過ごす。これこそ「今でしょ」



家庭菜園に挑戦中！！



児玉 幸寿 (大学28回)

10年ほど前から家庭菜園にはまっている。庭の大半を掘り起こし畑にして、いま年間約15種類の野菜を作っている。(スナックエンドウ、小松菜、チンゲンサイ、大根、きゅうり、トマト、ナス、ピーマン、シシトウ、ニラ、アスパラガス、オクラ、ツルムラサキ、ねぎ、茗荷など)。

はまった理由は

- ① 日々成長の変化を見るのが楽しみ。
- ② 手をかければ期待を裏切らない。
- ③ 家族(特に妻)が喜んでくれる、等々。素人なので失敗は多い。肥料のやりすぎ、水枯れ、猛暑、特に無農薬なので害虫被害は大変、もう少しで収穫なのに全滅した事も。石ころだらけの痩せた土地なので土壌改

良にも苦戦、有機肥料が良いと聞いて1年前からボカシ肥料に挑戦している。農協でボカシの素と糠を買い発酵させているが、化成肥料に比べて肥料持ちが良く野菜の成長も早く、今のところ上手くいっている。



茂明の宝箱 —書き溜めた250曲 12曲をCDに—

フレット来夢・8人の侍



園田茂明氏(20回)

園田茂明さんのCDが送られてきたのは2021年9月だった。作詞・作曲 園田茂明、編曲 清正(せいしょう)寛、制作者は妹の湯之上恭子さん。園田さんの一周忌が終わり、遺品整理の中で見つかった5冊のノートに、園田さんが作詞・作曲した250余りの曲が書き留められていた。園田さんが17才から32才まで書き溜めた曲だった。九大マンクラ出身である妹さんが、その中から12曲を選び、高校大学の先輩である清正さんに編曲を依頼、検討を重ねて遂に出来上がった。清正寛さんは日本マンドリ

ン連盟名誉顧問、マンドリン界の重鎮である。

Shigeaki's Treasure Chest 「茂明の宝箱」とタイトルが付けられた。

園田茂明さん(20回)

1949年大分市生まれ、中学生の頃から作詞・作曲を始め、高校生の頃は1年間に100曲を目指す。大分大学ではマンドリンクラブに入部し、マンドリンを担当。大学3年の時はポピュラーステージの指揮者、4年の時はコンサートマスターを務める。卒業後は(株)東芝に勤務しながら作詞・作曲を続ける。NHK「あなたのメロディ」(自作の曲をプロの歌手が歌う視聴者参加型の番組)に17才で出演、31才の時に二度目の出演を果たす。(湯之上恭子さんのCD紹介文より)



CDに収められた13曲

- 1 春をまつ
- 2 白い雪
- 3 今日も電車の中で

(NHKの「あなたのメロディ」に作詞・作曲者として出演、1980年10月19日放送 歌：ジェリー藤尾)

- 4 青い空のはて 5 素晴らしき友 6 時の流れに
(「サンデー毎日」の曲募集に応募し掲載された曲)
7 燃える砂漠 8 夢のなかの君 (NHKの「あなたのメロディ」に作詞・作曲者として出演、1966年12月4日放送 歌：田辺靖雄) 9 名も知らぬ街 10 忘れかけてたのに 11 ふるさとの思い出
12 あの星のように 13 アンコール・春をまつ

曲風を文章で伝えるのは至難の業だが、ポップス調の軽快で爽やかな曲と、しっとりと落ち着いた曲が拮抗している、といったところか。

我々「フレット来夢」(分大マンクラ関西OB)と園田さんとの関わりは、2007年の結成時にまず相談したのが園田さんだったことに始まる。その時園田さんは単身赴任で大阪にいた。園田さんと数名で連絡を取り合い、8月20日、コンマスの園田さんを中心に「フレット来夢」が誕生した。そして1年経った2008年9月、転勤で東京に呼び戻される。関西OBは貴重な人材を失ったと嘆いた。急な話で、送別会を開催する暇もなかった。

東京では「マンドリーノ・カンタービレ」(分大マンクラ関東OB)を起ち上げ活躍。東芝退職後は故郷大分に帰り、大分大学OBマンドリンアンサンプルの代表を務める。2017年のOUMC60周年では事務局長として開催に尽力、大成功に導いた。その1年後の2018年10月16日、病のため亡くなる。享年69、余りにも突然の死でした。



このCDをきっかけに、妹の湯之上恭子さんと何度かメールのやりとりをしました。妹さんは現在、鹿児島マザーズマンドリンアンサンプルで活躍されています。昨年9月26日にCDのお礼も兼ねて妹さんとフレット来夢メンバーでズームによる「園田さんを語る懇談会」を開きました。

参加者は津志田総穂(20回)、川崎明(20回)、甲斐誠三(21回)、甲斐恵子、藤野敬三(22回)、坪井千恵子と湯之上恭子さん。CDの感想は、「優しく、心癒される」、「抒情豊か」など。「園田さんと星空の下で歌ったことがある」、「園田さんに教わったミカンの剥き方」など懐かしい話が次々と出てきました。園田さんを思い浮かべながら、「真摯で優しく、はにかみ屋で、音楽一途」な人となりを感じました。最後は、甲斐恵子さんの歌と甲斐誠三さんのギター伴奏で、園田さん作詞作曲「青い空のはて」を演奏、ナマ演奏付きの、ちょっと贅沢な懇談会になりました。

園田さんと同期の津志田さんは、湯之上さんへお礼



の手紙の中で、次のように語っています。

入部して間もないころ園田君から、「高校生の時にNHKの『あなたのメロディ』(前述の視聴者参加型の番組)に出演したことがある」と聞いたことがあります。学生服で出演した高校生らしき人をテレビで見た記憶があります。あれが園田君だったんですね。

2年生か3年生の頃、10数名で園田邸に1泊したことがあります。部屋にはオープンリールのテーブデッキがでんと座り、ポールモーリアや映画音楽のレコードが並んでいました。園田家自家製のミカンをとらふく食べた記憶があるので、季節は秋だったのでしょうか。私はこの時、園田君に「ミカンの皮はこういう風に剥くもんだ」と教えられました。それは、ミカンのお尻に親指を突っ込んで二つに割るというもので、私は今もこのやり方でミカンの皮をむいています。

園田君はマンクラにしては珍しく運動能力に恵まれていました。坂ノ市の海洋会館での合宿時のソフトボールでは軽いスイングで長打を飛ばす姿が印象的でした。カラオケでは、「箱根八里の半次郎」が十八番で、氷川きよしや橋幸夫の股旅者のほか、テレビアニメの主題歌も得意でした。鉄腕アトムを皮切りに、次々と飛び出す往年のアニメの主題歌を歌う姿は、生き生きとして日頃のシャイな彼とは思えないものでした。軽くコブシを利かせる歌いっぷりには、軽くてしなやかな長打のフォームを思わせるものがありました。

CDに納められた曲は、しっとりと落ち着いた曲が多く、彼の人格がうかがえます。早速ビールを前に黙とうし、作品集を聴きながら園田君を偲びました。



園田茂明さんの作った「フレット来夢」は、今も月1回の合同練習と自宅での個人練習を続けています。園田さんの残した遺産を大切に守りながら、コロナが収束すればいつでも活動を再開できるよう、ウォーミング・アップに余念がありません。

*執筆参加

真継忠(19回)・津志田総穂(20回)・甲斐誠三(21回)・坂本温(22回)・藤野敬三(22回)・甲斐恵子(教育学部)・坂本加代子(教育学部)・坪井千恵子(教育学部)

1. 日 時：令和4年11月20日(日)
2. 場 所：関西クラシック G C
3. 参加者：加藤、安部、長谷川、鍵本、野中、大石、河野、松尾、小俣、後藤、児玉、佐藤

秋も深まり紅葉が映える関西クラシック G Cで11組、42名の参加で第二回関西ゴルフ三経戦が開催されました。朝のミーティング時に弱い雨が降り心配されましたが、その後降雨は無く曇り一時強風の下、熱戦が展開されました。

結果団体戦は山口大鳳陽会が923で優勝、長崎大瓊林会が932.8で2位、四極会が937.2で3位でした。

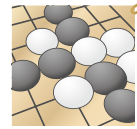
個人戦は1、2位が山口大、当会の長谷川さんが85で3位、加藤さんが88で5位、鍵本さんが88で6位と上位を占めました。

四極会を代表して加藤ゴルフ部会長がスピーチされ、学生時代に剣道部と囲碁部で三経戦に参加したエピソードを語られ、73歳(実は83歳)となった今ゴルフ三経戦をやれて大変嬉しく生涯続けると力強く語られました。



活動実績および今後の予定について（ご報告）

幹事 小川清一郎



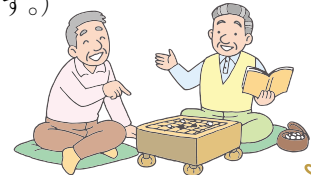
囲碁部の活動は2020年(令和2年)1月25日に新春囲碁大会開催後、今日まで長期休会を余儀なくされました。

7波にわたって続くcorona感染の拡がりによって、対局と懇親の機会が失われました。日々の報道では感染者が減少してきましたがまだまだ油断できません。十分注意を払って貴重な時間と囲碁人生(?)を少しでも取り戻すべく、活動を復活していきます。

今後の予定を以下のとおりご報告いたします。(2022年内は対局を見送ります。)

2023年活動予定

春季囲碁大会	〃	3月	秋季囲碁大会	〃	9月or 10月
夏季囲碁大会	〃	6月	囲碁交流戦	〃	11月



ゴルフ部活動報告



幹事 河野 博文 (大学22回)

幹事 後藤 寛 (大学27回)

第45回 懇親ゴルフ会

<開催日> 2022年6月6日(月)

<天 候> 小雨

<場 所> 関西クラシックGC
湯谷→清水コース

<参加者> 13名(4組)

加藤 皓以(大11回)、安部 亮一(大11回)、
小川清一郎(大15回)、宇都宮 護(大17回)、
鍵本 明(大17回)、長谷川浩二(大17回)、
原 國俊(大20回)、野中 千尋(大21回)、
大石 哲史(大22回)、河野 博文(大22回)、
宮本 勝一(大23回)、小俣 秀記(大27回)、
田崎 隆徳(大32回)



<成 績>

順 位	お名前	GROSS	HDCP	NET
優 勝	安部 亮一	90	18.0	72.0
2 位	長谷川浩二	89	15.6	73.4
3 位	原 國俊	99	25.2	73.8
ベスグロ	長谷川浩二	89	—	—

関東、甲信越で梅雨入りした6月6日(月)に懇親ゴルフコンペを開催しました。

今回の参加者は13名(4組)でした。

前日からの雨で心配されましたが、スタートする頃には小雨となり途中で雨も上がり和気あいあい全員楽しくプレー出来ました。

成績は、優勝は安部さん(大11回)、2位はベスグロの長谷川さん(大17回)、3位は久しぶり参加の原さん(大20回)でした。

プレー後の表彰式で大石会長より、10月に総会を開催する旨と関西ゴルフ三経戦実施の要望があり閉会しました。



第46回 懇親ゴルフ会

<開催日> 2022年10月31日(月)

<天 候> 快晴

<場 所> 関西クラシックG C
清水→大洞コース

<参加者> 9名(3組)

加藤 皓以(大11回)、宇都宮 護(大17回)、
鍵本 明(大17回)、長谷川浩二(大17回)、
坂本 直(大17回)、野中 千尋(大21回)、
大石 哲史(大22回)、河野 博文(大22回)、
後藤 寛(大27回)



<成 績>

順 位	お名前	GROSS	HDCP	NET
優 勝	鍵本 明	103	30.0	73.0
2 位	長谷川浩二	86	10.8	75.2
3 位	坂本 直	101	25.2	75.8
ベストグロ	長谷川浩二	86	—	—

コロナ禍が少しずつ収めてきた中、10月31日(月)に懇親ゴルフコンペを開催しました。

快晴、微風の絶好のコンディションの下、通常より少ない9名の参加でした。

11月20日の長崎大、山口大との三経戦を睨んだ調整の意味合いもあり、和気あいあいの中にも熱心なプレーを展開しました。

成績は、HDCに恵まれた鍵本さんが優勝、2位はベストグロ86の長谷川さん、3位は遠路鳥取から参加の坂本さんで、大17回生が上位を独占する結果となりました。



「四極の風の会」活動報告

幹事 利光征四郎

2019年11月に第44回散策会を開催して以降、コロナ禍により当会は活動休止をしています。皆様ご承知の通り、この間、一時はコロナ流行下火となり散策会再開が期待されましたがその後は株変異でパンデミックは7次にまで至っています。

コロナ流行当初は高齢者が感染すれば重症化率、死亡率が高いことから2020年9月に散策会開催中止を提案しました。感染者数の多さ、流行期間の長さ共に予想外で長期にわたり活動を停止していますが、世の中の動きは感染者数の減少傾向を見てコロナ禍での生活正常化に向かって動き始めています。飲食規制の廃止、イベント参加人数枠の変更、水際対策の緩和、旅行キャンペーンなどで人流回復策を進めています。

我々高齢者としては疫禍を恐れてばかりでは健康生活に不安あります。また、健康維持にあわせてblankで中断している会員間の交流回復を図ることも重要です。世の中は一斉にコロナ禍の平常生活に向けて舵

を切りつつありますがこれらの動きも意識しながら活動を再開したいと考えています。

開催の概略

開催時期 11月上旬ころ

開催場所 天王寺七坂巡り

ただ、非常事態宣言等の事態となれば柔軟に対応します。

続いて、コロナ禍により休止していた活動再開の表明にあわせて当「四極の風の会」の歴史について触れながら活動の趣旨をご理解いただきたいと思います。当会の歴史は、会の前身である「大11回卒ハイキングクラブ(歩こう会)」に始まります。当クラブの活動は2003年10月に第1回の散策会を、以後年間2～3回を開催し、2014年4月、クラブから「四極の風の会」に名称変更し現在に至っています。散策会はコロナ流行の前年、2019年11月に第44回を開催して後に休会となっていることは冒頭に述べたとおりです。

名称変更は会員構成の変化によるもので、スタート時の会員は大11回生がすべてでしたが回を重ねる内に若い年次の会員が加入してついに11回生の会員数を上回る事態となったことによります。これで会の名称を単独年次から「関西四極会」全体をカバーする名称に変更されましたが、命名者の田代友二郎君(会のリーダー・故人)は次のように記録しています。

「四極を四方の果てととらえ、四方の遠い空や風景に見立ててそこに吹く風を感じて四極の風とした。趣旨は、遠く四方を見渡し、景色を楽しみながら和気あいあいと歩を進めるとした。」

尚、読み仮名は「しはすのかぜのかい」

四極とは、磯の果てで海に突き出た地形の意。四方が極まった状態をいうが、遠い風景と見立てて歩きの背景としたところがウォーカーの本領を顕しています。

当会の歴史を述べてきましたが、会員数の状況について触れます。会の名称変更時の資料では会員数は19名。現状の名簿では16名、会員の老齢化が進んでいます。この後、「四極の風の会」の維持・発展には会員の増加が必須と考えますのでこれを機に新規会員を募集します。また、一度散策会に参加してみたい方は大歓迎です。会の名付け時の趣旨にご賛同される方の声をお待ちしています。

連絡先 090-5656-2023

近況報告



経専24回 末光 克吉

小生高齢により脱会致します。皆様には永年お世話をいただき厚く御礼申し上げます。

経専25回 細田 泰嗣

93才になりました。
90才をすぎると足が弱くなり、杖をつけて歩いています。残念ながら欠席します。

経専27回 河野 正道

一応健康にて91才になりましたが、出席は無理なので皆様によりしく。

大学4回 野仲 一敏

総会は加齢による体力、脚力低下とここの施設のコロナ禍対策強化の為出席できず残念です。盛会をお祈り致します。

大学5回 兼子 昌幸

永らくお世話になりましたが、小生高齢(88才)になりましたので、勝手ながら四極会を脱会いたしたくよろしくお願ひ致します。

大学8回 大橋 伸吉

四極会会長が「高齢化している上野丘世代の会員、四極会活動にあまり関心を示さない且野原世代の会員、4割を越える女性会員…」とありましたが、大8回生から見ると若い世代に支えられています。前途洋々と思えます(四極NO.123参照)且野原世代諸君ありがとう。上野丘に学びし世代より。四極が楽しみです。

大学10回 梅木 駿八郎

御案内をいただき有難うございます。今回も又欠席いたします。御盛会と御出席の皆さまの御健康をお祈りいたします。

大学10回 吉田 吉則

楽しみにしています。(本年83才となります。)

大学11回 湯浅 喬

コロナで動けなかったが、今年こそ開催出来る事祈ります。

大学12回 安部 登

通院治療中です。盛会をお祈りします。

大学12回 内山 博之

異常な猛暑と豪雨で大変な年ですが、何とか無難に消化できてる事を幸いに思います。然し被災者の苦汁せる姿には胸の痛みを感じております。更に遠いウクライナの悲劇の一日も早い終結を祈っております。今回も不治の腰痛もあり、欠席させていただきます。

大学12回 土屋 義方

ご盛会を祈ります。

大学15回 小川清一郎

コロナの第7波が沈静化することを願っています。ワクチン4回目の接種は済ませました。

大学17回 坂本 直

鳥取市在住、山陰地区での四極会支部の再興をしたいと同窓生に呼びかけをしております。今回は、コロナ禍もあり、残念ですが欠席といたします。

大学17回 長谷川浩二

開催日迄にコロナが落ちつく事を願います。

大学19回 三宮 秀行

私も年を取ってなかなか動けなくなっています。故に、四極会通信の送付は不要として下さい。

大学20回 阿部 修

今回は不参加です。来年は参加できると思いますので、皆様にはよろしくお伝え下さい。

大学20回 中倉 義介

出席したかったのですが、日程がとれませんでした。残念です。

大学21回 安部 正則

コロナが落ちつき、10月2日に開催されることを願います。

大学21回 井崎 賢二

久し振りの再会を楽しみにしております。
事務局の方々ご苦勞様です。

大学21回 野中 千尋

妻 正子(教育学部)も出席させて頂きます。

大学23回 工藤 俊彰

盛会を祈念致します。

大学23回 栗崎 実

技能実習生の受入れ事業に携わっています。

大学23回 平野 和彦

久し振りの総会で皆様にお会いできる事を楽しみにしております。今年は妻・裕子(ゆうこ)も出席させていただきます。(S50年教育卒)
宜しく願い申し上げます。

大学23回 宮本 勝一

コロナ収束を注視しています。

大学30回 河田 信雄

所用の為欠席となりますが、会の益々のご隆盛を祈念いたします。

大学34回 増山 博道

誠に申訳ありません。コロナ規制解除にならず、欠席とさせていただきます。



2022年度会費納入者名簿（敬称略）

2022年11月30日現在

氏名	卒業	氏名	卒業	氏名	卒業	氏名	卒業
奈良定諄一	高 19	古賀 義人	大 13	山岡 広和	大 20	小林以久恵	大 40
松久 博	経 22	柴垣 俊三	大 13	安部 正則	大 21	前田 尚子	大 41
藤田 利男	経 24	比嘉 賀昌	大 13	井崎 賢二	大 21	山口 浩司	大 44
末光 克吉	経 24	川西 輝明	大 14	甲斐 誠三	大 21	山口 朋子	
二宮 憲夫	経 26	古賀 裕敏	大 14	河崎 照行	大 21	山中 紀子	大 46
細田 泰嗣	経 26	堤 眞洋	大 14	木村 政臣	大 21	前田 利章	大 51
川崎 和	経 27	東方 匡輔	大 15	野中 千尋	大 21		
河野 正道	経 27	小川清一郎	大 15	東 完夫	大 21		
牛島 恒夫	大 1	小野 仁彦	大 15	山崎 清太	大 21		
恩賀 幹雄	大 3	橋本 永爾	大 15	山本 良一	大 21		
緒方 副人	大 4	東 賢次	大 15	吉村鉄太郎	大 21		
高橋 前	大 4	松本 英樹	大 15	濱崎 義人	大 21		
野仲 一敏	大 4	村田 良一	大 15	泉 博二	大 22		
兼子 昌幸	大 5	山口 紘治	大 15	井上 龍生	大 22		
児玉 一朗	大 6	畔津 俊郎	大 16	今仁 正義	大 22		
山下 澄弘	大 6	加藤 剛	大 16	大石 哲史	大 22		
石尾 雄幸	大 7	杉浦 三郎	大 16	河野 博文	大 22		
古賀 和弘	大 7	山邊 幹生	大 16	坂本 温	大 22		
大橋 伸吉	大 8	安藤 清	大 17	辻 次郎	大 22		
高見 末雄	大 8	宇都宮 護	大 17	藤野 敬三	大 22		
浅野 信一	大 9	鍵本 明	大 17	古田 智則	大 22		
梶田 東雄	大 9	清松 壮生	大 17	石橋 英行	大 23		
小西敬一郎	大 9	後藤 克己	大 17	江良 正勝	大 23		
坂本 哲男	大 9	坂本 直	大 17	神本 信正	大 23		
高田 利雄	大 9	田川 幸雄	大 17	栗崎 実	大 23		
橋本 彰	大 9	時枝 信康	大 17	進来 英治	大 23		
森 信孝	大 9	野村 建	大 17	平野 和彦	大 23		
梅木騏八郎	大 10	長谷川浩二	大 17	福田 誠	大 23		
衛藤 慎吾	大 10	松尾 秀人	大 17	宮本 勝一	大 23		
岡村 伸啓	大 10	米田 民雄	大 17	工藤 俊彰	大 23		
河江 智	大 10	渡辺 靖夫	大 17	小玉 稔	大 24		
中山 克彌	大 10	和田 正彦	大 17	和田 安生	大 24		
吉田 吉則	大 10	高橋 聰子	大 18	松本 均	大 25		
安部 亮一	大 11	羽矢 寧典	大 18	高野畑峯利	大 25		
大村 龍興	大 11	真部 誠司	大 18	佐村 信哉	大 26		
加藤 皓以	大 11	三谷 博	大 18	松尾 信	大 26		
利光征四郎	大 11	矢野 眞治	大 18	水野 豊	大 26		
原 光伴	大 11	大谷 眞二	大 19	小俣 秀記	大 27		
湯浅 喬	大 11	小笠原憲一	大 19	後藤 寛	大 27		
佐藤 克巳	大 11	田中 英一	大 19	児玉 幸寿	大 28		
安部 登	大 12	真継 忠	大 19	満見 毅	大 28	高 商	計 1名
阿部 浩	大 12	阿部 修	大 20	小野 輝彦	大 29	経 専	計 7名
岩崎 正義	大 12	河内 正志	大 20	河田 信雄	大 30	大 1～10	計 25名
武下 孝治	大 12	児島 孝利	大 20	佐藤 敏明	大 30	大 11～20	計 68名
土屋 義方	大 12	津志田総穂	大 20	田崎 隆徳	大 32	大 21～30	計 43名
原 尚	大 12	中倉 義介	大 20	池田 浩	大 33	大 31～40	計 7名
松田洋三郎	大 12	中島 正博	大 20	佐藤 浩己	大 33	大 41～50	計 3名
三浦 英樹	大 12	野瀬俊一郎	大 20	西村 章	大 34	大 51～60	計 1名
長田 弘	大 12	原 国俊	大 20	坊垣 巖	大 39	大 61～	計 0名
木ノ下憲二	大 13	古野 美歳	大 20	小野 正輝	大 40	総 計	155名

会費納入ありがとうございました。令和5年度もよろしくお願ひ致します。



粘着テープ・各種機能性フィルムの打抜加工・販売

KATO SEIKO
KATO SEIKO

取締役会長 **加藤 皓以** (大学 11 回)

株式会社 **カトー精工**

<本社> 〒566-0045 大阪府摂津市南別府町8番40号
TEL.06-6349-9120(代) FAX.06-6349-9121

<国内>相模原事業所・東海事業所・福岡事業所・仙台営業所

<中国>天津加藤精密電子有限公司・東莞加藤精密電子有限公司・蘇州加藤精密電子有限公司

<香港>香港加藤精電公司

Fukuhara

一般区域貨物運送事業
機械器具設置業・造土工業

代表取締役 **水 野 豊**

大学26回 和田ゼミ 軟庭



福原運輸株式会社

〒556-0022 大阪市浪速区桜川2丁目11番31号
TEL(06)6562-7377 FAX(06)6561-5693



関西四極会報も本号で第27号の発刊となりましたが、ご寄稿頂きました皆様には心から厚く御礼申し上げます。特に、今年度は母校大分大学経済学部の100周年記念行事に参加された会員の方に、行事の様相や感想等をお寄せ頂きました。

又、10月2日には待ちに待った年次総会を3年半振りに開催することができました。

コロナ禍により例年の参加人数には及ばなかったものの、来賓の方を含め45名のご参加を頂き、感染症防止対策を十分に行った上で無事に終了する事ができました。

総会では、役員改選及び会則変更もご承認頂きましたので、ホームページをご参照下さい。

尚、来年の総会は2023年4月16日(日)に開催を予定しております。

会員の皆様の多数のご参加をお待ちしておりますので、宜しくお願い致します。

引き続き会員各位のご支援・ご指導を頂きます様宜しくお願い申し上げます。

(大学 26 回 松尾 信)



<http://www.kansai-shiwasukai.club/>

